

“ソフリエ”と在宅勤務が働く女性を応援する力になる

日本初となる“お爺ちゃんの孫育て力”育成「ソフリエ講座」を全国で展開する「エガリテ大手前」。代表の古久保さんに、このユニークな試みの狙いを伺いました。また、古久保さんがご自身の会社で実践中の「在宅勤務」について、実際にお二人の女性社員に感想を伺いました。2つの話から少子高齢化社会活性化の大きなヒントが見えてきました。



(左) 西本 里美
ファイナンシャル コントローラー
(右) 片桐 三枝子
カスタマーサービスマネージャー

お爺ちゃんの新しい生き方

水野 “ソフリエ”は面白いネーミングですね。

古久保 もちろんワインの専門家「ソムリエ」のもじりです。育児の知識と技術を備えたカッコいいお爺ちゃん、というイメージを表現したつもりです。

水野 どこから着想されたのですか？

古久保 高校卒業後30年目に同窓会の当番幹事を何人かとやった時に、何か世の中に役立つことがしたいねと話合っただけです。母校は明治創立の女学校で、男女共同参画意識が高かった。改めて今の世の中を見ると女性の就労、特に出産後の育児と仕事の両立という面で、制度はいろいろできていても現実にはまだ困難が多い。これを何とかできないかと考えました。

水野 そこでお爺ちゃんの力をと。

古久保 調査したんです。退職した300人くらいの人たちに聞いてみた。そうしたら「孫の育てに参加したい」という声が8割以上の人から上がりました。ところが奥さま、つまりお婆ちゃんに聞くと「あの人に子育てなんてやれっこない」と、冷ややか。娘さんも、自分の育児を身内に手伝ってもらえたら嬉しいと思いつつ「お父さんには無理」と諦めていました。しかし、現にやる気十分のお爺ちゃんがいるのですから、これは教育をすればいいのではと考えました。

心構えから「だっこ」の仕方まで

水野 「ソフリエ講座」はどのような内容ですか？

古久保 朝10時から夕方4時まで、4科目をじっくり学びます。まず「基本編」。子どもの成長についての基礎知識です。次が「日常編」。だっこの仕方からおむつ

の替え方などを実践的に学びます。さらに「安全編」。これは誤飲した時の対処法や人工呼吸の仕方。そして最後が「触れ合い編」。いろいろな遊び方を学びます。昼食時間も離乳食づくりをしながら、自分たちの昼食の用意、片付けまでを学びます。

水野 バランスのとれたカリキュラムですね。時間的にはハードそうですが。

古久保 1日の最後には「修了証」を手渡します。これを持って帰れば、奥さんや娘さんも、じゃあちょっと手伝ってもらおうか、ということになるでしょう。

水野 「ソフリエ」の1日は、どんな風になりますか？

古久保 朝は子どもの家に出勤、前の晩からの出来事を引き継いで夫婦を会社に送り出し、その後は“主夫業”です。育児だけでなく、掃除、洗濯、買い物、そして晩ご飯の支度をして、どちらかが帰って来たら、その日の様子を伝えて帰宅します。晩ご飯は自分とお婆さんの分も作って持ち帰る。するとカルチャーセンターから、お婆さんがおなかをすかして帰ってくる(笑)。



育児が地域参画にもつながる

水野 生き生きとしたお爺ちゃんが目に浮かびます。

古久保 孫育てはお爺ちゃんが家庭に「椅子」をもついいチャンスなんです。しかも育児は、子どもの成長に伴ってだんだん負担が小さくなる「負荷低減型」で「期間限定」です。定年退職者の「家庭参画」、「地域参画」、「社会参画」が必要だといわれていますが、これは3つ並行してできることではありません。段階的に実現すべきことであり、まずは家庭参画が最初のステップです。

在宅勤務が子育てを支援

水野 古久保さんは会社の経営者でもいらっしゃるのですが、自社で在宅勤務を進めていらっしゃるんですね。

古久保 無駄に長い通勤時間を業務に振り向けることができたらと、考えたからです。子育て中の女性社員には、育児支援になるとも思いました。

水野 実際に在宅勤務をされていかがですか？

片桐 通勤の負担がないのはありがたいですね。また子どもが学校から戻ると家にいるので、学校で何かあれば表情で分かります。通勤していた頃のように、私が後から帰ってくると、子どもはもう自分なりに消化してしまっているから、それについてしっかり話をすることができないでしょう。

西本 最初は戸惑いがありました。たとえば、天候の悪い日が続いて洗濯物が溜まっている時、仕事時間ではあるものの家にいて洗濯ができる状態なのに、仕事を

しなければならない。出勤しているなら諦めもつのですが、同じ場所にいるだけに、気持ちの負担が大きという一面もありました。しかし今は、子育て中の主婦にはありがたい環境だと思っています。

タイムマネジメントでメリットを生かす

片桐 自分なりにタイムマネジメントをしないと、仕事も家事も、両方中途半端になりかねませんね。私は基本的には朝の始業から昼休みを挟んで夕方まで、通勤時と同じように自宅でも“就業”しています。

西本 私も同じです。ですから、勤務時間内に私用がある時は「有給休暇」を取ります。

水野 そこまできちんとされているんですね。

西本 でも、こういう切り替えがうまくできるようになるまでに1年くらいかかりました。

片桐 人に会うことも大事ですね。私はできるだけ会社の同僚と話をする機会を設けています。

西本 家に閉じこもらないで、意識的に行くことは大事ですね。週に一度くらいは、同僚に会うようにするとバランスがとれると思います。

水野 いずれにしてもお爺ちゃんの孫育てと女性の在宅勤務は、少子高齢化社会の活性化策として大きな力を発揮しそうです。今日はその2つを先頭で担っている方々にお話を伺えて、大変参考になりました。ありがとうございました。

今回は、常滑にお住まいの山中潤一さん、住宅設備メーカーで製品品質保証のお仕事をされています。

窯業の盛んな愛知県常滑市は四半世紀以上も町をあげて焼き物を学ぶ海外の人たちを支援してきました。退職後は国際的な焼き物の町づくりにホストファミリーとして貢献しようと思立った山中さんは、今、古民家のゲストハウスへのリフォームを楽しんでおられます。



ふるくぼ しゅんじ
古久保 俊嗣
NPO法人 エガリテ大手前代表。(株)ATL代表取締役。北九州市、静岡市議会、千代田区、練馬区、学習院生涯学習センターなどで福祉政策、企業経営、ビジネスなどについて講演。著書に『ある軍国教師の生涯』(碧天舎)、共著『祖父ソフリエになる』(メディカ出版)、『ジェンダー白書 アクティブシニアが日本を変える』(明石書店)などがある。



水野 武光
三井ホーム
オーナーサポート推進部